



越郷の丘

大槌町立吉里吉里学園中学部

学校通信 No 2024 - 17

令和6年 10月29日発行

Tel : 44-2310 Fax : 44-2043

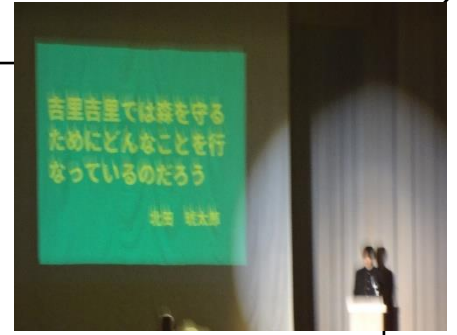
学校教育目標 『自立から自律へ』

目指す子どもの姿 「確かな学力」「豊かな人間性」「豊かな心と身体」「未来に生きる郷土愛」

☆令和6年度小中合同文化祭 大成功に終わる！

10月26日(土)に令和6年度小中合同文化祭が開催されました。小中共通スローガン「Let's go！」小学部スローガン「笑顔満祭」中学部スローガン「最高の合唱へ！さあ歌おう！」を掲げ、この日まで児童生徒は頑張ってきました。今年度の郷土芸能の発表は「虎舞」でした。4～9年生が昼練習4回、夜練習3回計7回の練習を行い、本番では迫力のある「虎舞」を披露してくれました。9年生のリーダー中心に下級生を引っ張ってくれたこと、本当に素晴らしいと思います。私の主張では、9年倉本華さんが発表しました。フォートブラッグとの交流に触れ、日本とアメリカの文化の違いに気づき、衝撃を受けたことを話していました。華さんは自分の考えをしっかりとって行動をとってくれたこと、当たり前のことかもしれませんが、素晴らしいと思います。ふるさと科の発表では、9年川原来琉さんが「海の環境汚染」、北田琥太郎さんが、「吉里吉里では森を守るためにどんなことを行っているのだろう」をテーマに個人探究の発表をしました。2人は、知りたいこと、気になることを調査し、地域のアドバイザーからインタビューをしたことをまとめ、発表に繋げていました。中学部の合唱では、「友達の友達」「虹色の未来」の2曲を披露しました。男声パートの響きや女声パートのきれいな声で、元気が出てくるというか、勇気をもらうことができました。

最後になりますが、ご来賓の方々、保護者や地域の皆様に児童、生徒たちの活躍を見ていただきました。本当にありがとうございました。児童、生徒たちは、また一步成長しました。今後も、行事を通して、成長できるように教職員、児童、生徒が一丸となって、頑張っていきたいと思います。



<9年 倉本華さん > わたしの主張 「『違い』が教えてくれたこと」

今年の三月、私はアメリカのフォートブラッグという町に、ホームステイに行ってきました。アメリカは、私が小学生の頃から行ってみたかった憧れの国でした。

「これがアメリカ！」私たちを乗せた飛行機は、アメリカのサンフランシスコ空港に到着しました。フォートブラッグでは、いろいろな施設を見学しました。町全体もきれいで、見ているだけで楽しい気持ちになりました。

しかし、それまでの私のワクワクは、ある高校の授業に参加した瞬間、なくなりました。

その理由は、そこにいた生徒たちが、授業を受けながらお菓子を食べたり、どうどうと寝ていたり、前の人の椅子を蹴ったりして、そして教室の中は、鼻がおかしくなるほどの香水の匂いでした。生徒も先生も髪を染めて、タトゥーも入れていました。

私のそれまでの学校のイメージが一瞬で崩れました。

皆さんは、このような香水臭い教室で、お菓子を食べながら授業を受けたいと思いますか。

私は、戸惑いと違和感を覚えました。

アメリカと日本の「文化」の違い、と言ってしまえば簡単ですが、私はそう簡単に割り切れませんでした。

すると私の前の席でお菓子を食べていた一人の生徒が、私の方を向いて、「E a t i t!! 君も食べなよ」と、食べていたお菓子の袋を差し出してきました。

私は、とっさに「イヤだ! NO!」と言って、その袋を彼に突っ返しました。彼は、少し驚いた顔をしていましたが、すぐに「OK!」と言って笑いました。

私は、絶対食べたくない、と思って「NO」と言ったのですが、それは、私の心の奥にある、何か拒否したのです。

うまく説明できませんが、そこで、もしお菓子を食べていたら、私が今まで大切にしてきたものが、一気に壊れてしまうような感覚におそわれたのです。もし食べていたら、その後の私の日本での生活にも大きく影響してしまうような気がしたのです。

私は、それから、周りに流されないように、授業を受けて過ごしました。私にお菓子を断られた生徒も、前と変わらず笑顔で接してくれました。私の「NO!」を受け入れてくれたんだと感じました。相手の気持ちや考えを受け入れて、尊重してくれる。アメリカはそんな国だから、「自由の国」なのだと思います。

アメリカにはアメリカの考え方があり、文化や伝統があります。しかしそれが日本に合うかどうかは別問題です。

メジャーリーガーの大谷翔平さんが、試合中のダグアウトで、食べているヒマワリの種の殻を、紙カップに捨てている様子をテレビで見ました。他の選手は、みんなそのまま自分の足もとに、種の殻を吐き捨てるのに、大谷さんは紙カップの中へ。

これも「文化」の違いなのでしょう。つまり、生まれ育ってきた環境の違いなのでしょう。これがアイデンティティだと私は思いました。

私のアメリカ旅行は、日本や自分自身を見つめ直す良い機会となりました。

私という人間のアイデンティティは、これからもこうしたいろいろな文化に触れることで作られていくはずですが、私は、私の中にある大切にしてきたものや考え方をこれからも守り、それをベースにして自分をつくっていきたいと思います。